

【実施日： 2021年3月1日】

(評価基準) A：取り組みが理想的な状態 B：取り組みがほぼ出来ている

C：取り組みにもう少し努力が必要 D：今後十分な努力が必要

自己評価の観点	保育士				評価
	A	B	C	D	
1 園の理念・保育方針の理解					
○園の保育理念や保育方針を理解している。	1	8	3		B
2 保育所保育指針の理解					
○保育所保育指針を理解していると思う	1	6	5		B
3 保育課程の理解					
○園の保育課程を理解していると思う。	1	3	6	2	C
4 子どもの発達援助					
○一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	1	10	1		B
○定期的に指導計画の評価・見直しを行いその結果を指導計画に反映している。	3	8	1		B
○指導計画を作成する際、園の理念や保育課程を基にして作成している。	1	4	7		C
○一人ひとりの子どもに関する発達状況、保育目標についての記録がある。	5	7			B
○一人ひとりの子どもに関する情報を周知している。	4	6	2		B
○一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実践について話しあう為のケース検討を必要に応じて実施している。	1	5	6		
5 健康管理					
○保健年間計画に基づき子どもの健康管理を行っている。	1	9	2		B
○身体測定や健康診断の結果について定期的に記録し、子どもの健康状態を保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	3	7	2		B
○乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防に努めている。	10	2			A
○感染症の予防に努め保護者にも伝達している。	7	5			A
○登園時は視診や検温により子ども一人ひとりの健康状態を確かめている。	7	5			A
6 食事					
○食育を通して子どもたちが楽しく食べ、その中で食べる意欲が育つように配慮している。	6	6			A
○調理担当者と子どものコミュニケーションが図れるようにしている。	1	6	5		A
○月齢に応じた食事の量や形態(固さや大きさ)を理解し成長を促すことが出来る。	5	7			B
○その日の喫食(哺乳量)を保護者に伝えている。	5	5	2		A
○食事のマナーの基本的な考え方を理解し、子どもや保護者に伝えることが出来る。	1	10	1		B
○保育士と調理担当者が積極的に意見交換をし連携しながら食育活動を行っている。	1	8	3		B

自己評価の観点		A	B	C	D	評価
7 保育環境						
○気候や子どもの活動に合わせ、温度・湿度・換気などに配慮している。	4	8				B
○心地良く過せるように、環境を整えている。(清掃、整理整頓、室内装飾、作品展示等)	3	9				B
○屋内外の衛生面・安全面に配慮している。	5	7				B
○生活の場面に合った保育者の声、音楽などの音に配慮している。	2	8	2			B
○子どもが自ら活動を展開して行けるような場や空間の構成をしている。	2	10				B
○季節の変化に応じた環境構成をしている。	1	6	5			B
○子どもの動線や目線に配慮した環境構成をしている。	1	9	2			B
8 保育内容						
① 子どもへの理解と受容						
○子どもに分かりやすい温かな言葉使いで、穏やかに話している。	1	9	2			B
○抑制したり、せかしたりする言葉を必要以上に使わないようにしている。		7	5			B
○子どもの伝えようとする事に耳を傾け、何を求めているのかを理解し適切に対応している。	2	10				B
② 基本的生活習慣						
○基本的生活習慣については、一人ひとりの自主性を尊重し、家庭と連携しながら子どもの状況に応じて対応している。	2	9	1			B
○着脱の自立に向けて年齢や個人差に応じた介助や関わり方を工夫している。	5	7				B
○安心して休息〔昼寝〕が出来るように配慮している。	8	4				A
③子どもの活動への関わり方						
○子どもの発達段階に即した玩具や遊具を、質・量ともに適切に用意している。	1	10	1			B
○好きな遊びが自由に出来る時間やコーナーを用意している。	5	7				B
○身近な動植物に接することにより、命の大切さや季節感など豊かな感性を育むように配慮している。	1	8	3			B
○散歩などを通して地域の方々に接しあいさつや言葉を交わすなどしながら社会性を育む工夫をしている。	3	8	1			B
○絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	6	6				B
○身体を使った様々な表現遊びを取り入れている。	2	8	2			B
○様々な素材を使い、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮されている	2	10				B
○年齢に応じ、順番を守る等の社会的ルールを身につけていくように配慮している。	1	11				B
○相手の気持ちが分かるような声掛けや働きかけをしている。	1	10	1			B
○色々な運動遊びを工夫しながら取り入れている。	1	7	4			B

自己評価の観点		A	B	C	D	評価
④乳児保育						
○授乳は子どもが欲しがるときに抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながらゆったりと飲ませている。	1	4				B
○離乳食については家庭と連携を取りながら、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	1	4				B
○オムツ交換の際は優しく声をかけたりスキンシップを取りながら行っている。	4	8				B
○一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠が出来るように静かな空間が確保されている。	3	9				B
○外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。	7	5				A
○乳児の発達段階を理解し、個々の成長や場面場面での適切な対応に努めている。	1	11				B
○特定の保育士との継続的な関わりが保てるように配慮している。	1	11				B
⑤長時間保育						
○子どものその日の様子を職員間で伝達し合い、連絡事項などを確実に保護者に伝わるようにしている。	7	5				A
○長時間保育で不安にならないように家庭的な雰囲気を作り、安心して過せるように配慮している。	3	9				B
○一人ひとりの子どもの要求に応じて声をかけたり、必要に応じ抱いたり等、ゆったりとした気持ちで接している。	4	8				B
9 安全・衛生・危機管理						
○危機管理意識を常に持ち緊急時への対応が整えられている。	2	6	4			B
○緊急な場合に備えての訓練や研修が行われている。	4	8				B
○事故防止、安全管理のためのチェックリストを使い定期的に点検、確認が行われている。	6	6				A
○食中毒や感染症予防の具体的な取り組みを行っている。	3	9				B
○園内に危険な箇所や物がないか、危険な遊び方はないか等、常に確認している。	3	9				B
10 守秘義務						
○職務上知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。	10	2				A
11 保護者支援〔入所園児〕						
○個々の子どもの様子は送迎時に直接話したり連絡帳等を使い伝え合っている。	8	4				A
○クラスや子どもの様子、保育のポイント等をクラス便り等で知らせている。	4	8				B
○クラス懇談会や個人面談を行っている。	4	8				B
12 地域への子育て支援						
○子どもの発達や育児の不安等を気軽に相談できるように育児、栄養相談を行っている。	/	/	/	/	/	/
○一時保育の際、子ども一人ひとりに丁寧に接している。	/	/	/	/	/	/

自己評価の観点		A	B	C	D	評価
13. 特別な支援を要する子どもへの対応						
○特別な配慮が必要な場合の対応がされている。		2	4	1		B
14. 保育の質の向上 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）						
○保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		2	8	2		B

※④乳児保育、13 特別な支援を要する子どもへの対応欄は該当保育士のみ評価

園全体の評価

・今年度はコロナが流行し登降園時の受け入れの仕方の対策や、園内消毒、玩具消毒等すべてのことに感染対策を余儀なくされたが早めの対応をし、職員間で連携を図ることで安心、安全な環境を作っていくことができた。現在の時点で園児、保護者、職員と罹ることなく過ごせているので引き続き対応をきちんとしていく。

・年間を通して感染症対策を職員で行い休園することなく保育をできたことは良かった。保護者が入室できない分様子を具体的に伝えることを意識した。

・職員間で子どもの様子を共有し全体で把握することができた。

・避難訓練や不審者訓練などをしっかり行っている。園児、保育者も非常時における意識や安全な行動を身に付けてきている。

・基本的な生活習慣や挨拶などを身に付けられている。散歩中などは保育者が率先して挨拶することで子どもたちも元気に挨拶するようになった。

・コロナでの自粛期間中など園児の人数が少ないときに一人ひとりより深く関わる保育をし子どもたちが寂しくないような生活を心がけた。

・戸外での活動を多く取り入れ体をたくさん動かすようにしている。

・行事は縮小されたがその中でもできる範囲で楽しめるように考え取り組むことができた。

・職員会議や日々のミーティングで他のクラスの様子等情報共有している。

・個々の成長に基づいて計画を立て支援を行っている。

・子供の発達の姿に合わせた柔軟な対応をしている。

・園の保育理念や新保育指針を理解しきれていないことがある。改めて理解を深めていき保育をしていく必要がある。

・繰り返し避難訓練を行うことによって安全・危機管理に対する取り組みができています。

・子どもたちが好きな遊びに取り組めるよう、玩具や様々な素材を取り出しやすく工夫したり子どものやりたい気持ちを尊重して保育ができる環境作りができていますと感じる。

・子ども一人ひとりの様子や登園時の伝達など職員間で毎日のミーティングで共有しあい共通理解を図ることができています。

・ミーティング時や引継ぎノートを活用して情報共有しているが職員によっては確認してなかったり伝わっていないこともあったので、その点の改善をきちんとしていきたい。

・子どもの怪我、体調不良の児への対応は職員間で声を掛け合い対応できていてよかった。

・今年度はコロナ対策に追われた感があるが、職員間の情報共有がより大切になり個々の自覚が深まったように感じる。それぞれが子どもたちの為に何をすべきかを十分考えて保育をしてはいるが、自分の考え、保育に固執している面もあるので、再度新保育指針について学び直し子どもたちの非認知的能力を生かすことができる保育とは何かを考えていきたい。

来年度の課題

- ・引き続きコロナウイルス対策を徹底し、手洗い、消毒をきちんと行っていきたい。
 - ・ミーティングや会議の時だけではなく日頃から連絡や伝達をしっかりと行うようにし新に入職した職員、もともといる職員との連携を大事にしたい。
 - ・子どもたちの育ちをよく考え関わり方にも工夫をしていく。
 - ・保育環境をきちんと整えたり、子どもの見守りをする中であらゆる姿を想定しながら聞き管理能力を高め怪我を事前に防げるようにしていきたい。
- 子どもの気持ちに寄り添った保育、言葉のかけ方や雰囲気づくりなどが行えるよう自分の保育の見直しをし、行っていく。
- ・一人ひとりへの配慮や援助を個々に合った方法でできるような心掛ける。
 - ・自分自身が余裕を持ち活動等する際の導入などを考え、子どもたちのイメージが膨らむようにしたり、保護者に対してわかりやすい伝え方をするなど、自らを振り返りながら工夫をして日々の保育に力を入れていく。
 - ・言葉遣いに気を付ける。
 - ・園児・保護者の皆様が安心して楽しく通えるよう笑顔を絶やさない。
 - ・報・連・相を徹底する。
 - ・新保育指針に沿った保育を園全体で取り組み、理解を深める。
 - ・子ども主体の保育を意識し、指導計画を立て日々の保育を行っていく。
 - ・子どもの安全に関して職員全員が同じ方向を向けるように伝達、確認をしていく。
 - ・日々の保育が充実できる保育環境を作る。
 - ・子どもたちが自分の力で成長していけるよう日頃の関りを大切にして個々にしっかり目を向けていく。
 - ・乳児、幼児会議において様々なことを検討していく。
 - ・活動の狙いを明確にしていく。
 - ・保護者に余裕を持ってわかりやすく伝える努力を続けていく。
 - ・室内外の環境を子どもの興味、発達から整えていく。